

まちづくりNEWS

旭川市総合計画市民検討会議

第2分科会 vol.1

平成26年7月4日

(発行元)

旭川ウェルビーイング・コンソーシアム
旭川市1条通8丁目 フィール旭川7階
TEL/FAX 26-0338

(委託者)旭川市総合政策部総合計画課

旭川市総合計画市民検討会 第2分科会の第1回会議が行われました！！

6月11日（水）に旭川市総合計画市民検討会議第2分科会の第1回会議が開催されました。

この第2分科会では平成28年度以降の新たな総合計画の策定に向けた検討を行うため、これからの旭川市の「教育・文化」についての議論を行っています。

今回の会議では、総合計画検討のために若手の市職員で構成するワーキンググループからの検討報告と、フリートークなどを行いました。



職員ワーキンググループからの検討報告



○旭川市の地域資源と課題について

職員ワーキンググループの検討テーマである地域資源と課題について、検討内容を紹介しました。

1 学校教育について

キーワード～30人学級

旭川市では、独自に市内小学校全校で1・2年生の30人学級を実現している。一方で財源確保等の課題がある。

2 高等教育について

キーワード～「①人材供給拠点」

地域に貢献できる人材確保が進んでいる。一方で少子化等の影響がある。

「②旭川の魅力発信者」

旭川で学ぶ大学生が将来旭川の魅力を語る発信者になる可能性があるが、旭川に魅力を感じなかった場合、逆効果になる恐れがある。

3 社会教育

キーワード～「本好きな街」

旭川市は中核市41市中、市民100人当たりの市立図書館蔵書数が3位、市民1人当たりの年間貸出数が6位であり、文化的な生活を送っているまちと言える。

4 文化・芸術（人）

キーワード～「繋がり」

各界の著名な方が市内で活躍している方もおり、市民に近い存在となっている。市外に移る方もいるため、そのような方々と旭川市をつないでいくことが重要である。

5 文化・芸術（施設）

キーワード～「量と質」

文化・芸術関連の施設（拠点）が数多くあり、市民の文化・芸術活動を支えている。

6 文化・芸術（その他）

キーワード～「マンパワー」

多くのイベント等を実施する市民のやる気と底力が地域資源と言える。

7 文化財

キーワード～「①希少性」～貴重な史跡が数多く存在しているが、知名度向上が課題と言える。

キーワード～「②隠れ名所」～知る人ぞ知る地域の歴史やゆかりを伝える史跡や建造物がある。

8 スポーツレクリエーション

キーワード～「子どもが未来を想像できるように」

スポーツ施設が多くあり、将来世界で活躍する選手が輩出される可能性がある。予算が限られているが、子どもたちに未来を想像させるために、一流選手に触れる機会などを設ける必要がある。

フリートーク

主な意見

【旭川の課題】

- ・関西にいたが、旭川は何となく我関せずで盛り上がり欠ける面がある。元気が出るようなまちづくりが重要である。
- ・地元の良さを分かっていない人が多い。

【教育・文化】

- ・教育文化は地域に根ざしている。文化、自然などの資源があって産業が興ってくる。
- ・旭川は自然豊かで伝統工芸等、色々な記念館があり、良いまち。
- ・教育委員会で地域素材の活用は位置付けされているが、小学校で市内の施設を取り上げることはできても中学校では難しい。食育やキャリア教育など様々なことを実施しなければならないが全てのことをやりきれていないという現状がある。



- ・子どもたちが本物に触れる機会を用意することが重要。メダリストやプロのコンサートなど本物に触れると子どもたちの眼が輝く。
- ・大学や専門学校の充実を図る必要がある。地域に根ざした大学や地域に貢献する大学の色を出していく必要がある。

【子育て・少子化対策】

- ・子育て中の親は周りに支える人がいないと子育てがつかなくなる。定年を迎えた世代がつながって手助けをすれば良いのではないか。
- ・未婚者の出会いの場を提供するなど、結婚・出産を支援する必要がある。
- ・高等教育機関を充実させ、経済界と連携し若者が住みやすいまちづくりを行うべきではないか。若者が定着すると結婚、出産するので少子化対策になる。（例）学生証でどこの店でも1割引になる制度等
- ・民間や専門家との協力で、結婚だけでなく子育てのプロデュースをしてはどうか。
- ・60歳以上が参加するボランティア団体を今年立ち上げたが、年をとったからこそできることがある。子育てを終了した世代が子育て世代を支援していくことが重要である。
- ・子育て中に地域からの支援を得て助かった経験があるので、地域のつながりや周りの環境、おじいちゃん、おばあちゃんに手伝ってもらわなければならない必要がある。
- ・若い世代は、弱く傷つきやすい。コミュニケーションはとれない訳ではなく、周りの接し方次第だ。

【雇用】

- ・旭川の小中学校を卒業した子どもがどれだけ旭川に残り、地場産業を支える人材になっているか不明である。調べるのは難しい。
- ・旭川に雇用先がないため、子どもたちが市外へ流出してしまう。官民挙げて就職先を確保すべきと思う。
- ・旭川ではキャリア教育が重視されていないが、就職率や定着率を改善するためのキャリア教育に力を入れるべきである。

【まちづくり】

- ・市民活動など、一生懸命にやる人が限られてしまうという課題がある。やる気がある人を支援する必要がある。

意見のまとめ

○どのように子育ての環境を整えていくか

→子育てを終了した世代によるサポートが必要である。

○地元の魅力をどう伝えていくか

→地元の魅力を子ども達につなげていくことはキャリア教育にもつながるので、子どもたちが地元の魅力に気付く仕掛けを用意することが重要である。

今後の予定

第2分科会は全部で4回開催予定です。

第1回 6月11日（水）、第2回 7月9日（水）、第3回以降は未定です。

第2回、第3回分科会では、「旭川をより良いまちにするために、私たちの立場から提言できること」をテーマに、各委員から提言発表していただき、分科会としての結論をまとめていきます。